The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ランバ語のテンス・アスペクト体系の再検討
Author(s)	牧野, 友香
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2019, 30, p. 14-32
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/72915
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ランバ語のテンス・アスペクト体系の再検討[1)]

牧野　友香

0. はじめに

ランバ語は，ザンビアのセントラル州，コッパーベルト州，コンゴ民主共和国のオウトカタンガ州にかけて話されている言語で，バントゥ諸語のひとつである。話者数は198,000人とされている (Ethnologue)。ランバ語のTA体系についてはDoke (1922，1938) の文法書ですでに述べられているが，時間の経過とともに，これらの記述からは異なる点が出てきている。そこで，筆者が新たに現地で採取したデータ[2)]をもとに現存している形式の確認を行い，それぞれの形式が持つ用法を詳述することでランバ語のTA体系の再検討を試みる。

1. ランバ語のテンス

まず，ランバ語の動詞構造は以下の通りである。(　) 内の要素は任意であるが，それ以外の要素は必須である。これらのうちTAを決定するのは前主語接辞，TA接辞，語尾である。

(前主語接辞)－主語接辞－TA接辞－(目的語接辞)－動詞語根－(派生接辞)－語尾

この節ではランバ語の過去，現在，未来テンスについて述べる。未来，過去テンスについては，それぞれ時間区分が複数に分かれている。このような現象はバントゥ諸語において珍しくない (Dahl 1985:120) が，Doke (1922，1938) をみる限り，その境界線はまだ明示されていない。未来と過去それぞれの時間区分についてもこの節で確認する。

---

1) 本研究は平成 29 年度特別研究員奨励費「ベンバ語およびその周辺言語におけるテンス・アスペクト体系における比較研究」(JP17J00068)，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「参照文法研究」，「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (フェーズ1)」，「アフリカ諸語における声調・アクセントの総合的研究」の成果の一部である。

2) 本稿で提示しているデータは，発表者が現地で行った調査によって収集したものである。ザンビア中部のコッパーベルト州の州都ンドラの中心部からほど近い場所にて，当時 60 代の女性 E.M 氏を調査協力者として採取を行った。E.M 氏は，初等教育から高等教育まで教育を修めており，ケニアへの留学経験もある。ランバ語のほかに，地域共通語であるベンバ語と英語を話す。

1.1. 現在

ランバ語で現在を表すものとして最も基本的なのは，以下の形式である (任意の要素は省略して示す)。

(1)　主語接辞－la－動詞語根－a　【*la*-形式】

TA接辞*la*-と基本語尾-*a*から成る*la*-形式は，以下の (2) のように習慣的な出来事や，(3) のように普遍的な事柄を表す。

(2)

ichíβusa	chanji	chi-**la**-pend-a	chainiizu
7.friend	7.my	7SM-PRS-read-BF	Chinese
inshiku	shonse		
10.day	10.all		

「私の友達は毎日中国語を読む」

(3)

ímbwa	i-**la**-kuu-**a**
9.dog	9SM-PRS-bark-BF

「犬は吠える」

Doke (1922，1938) はこの形式をHabitualと呼び，現在テンスとは別に扱っている (Doke 1922:71，Doke 1938:271)。確かに (2)，(3) にみるように，*la*-形式は発話時よりもはるかに長い時間の出来事を表しているが，Comrie (1985) の言うようにその中には発話時が含まれている (Comrie 1985:37-38)。したがって*la*-形式を現在テンスとして扱っても差し支えはないと考えられる。なおこの形式は，発話時において進行中の動作などを表すことはできない。発話時に進行中の動作を表す形式ついては2.2.3で述べる。

1.2. 未来

未来テンスに用いられる形式には，以下の2つがある。

(4) a.　主語接辞－ka－動詞語根－a　【*ka*-形式】

　　b.　主語接辞－aku－動詞語根－a　【*aku*-形式】

遠い未来を表すTA接辞*ka-*と基本語尾*-a*によって表される*ka-*形式は，発話時の翌日以降に起こる出来事を表す。そのため，(5a) や (5b) のように*mailo*「明日」，*uyu úmwaka*「来年」とは共起するが，(5c) のように*leelo*「今日」とは共起しない。

(5) a. ichíβusa chanji chi-**ka**-pend-**a** ili ibuuku **mailo**
7.friend 7.my 7SM-REM.FUT-read-BF 5.this 5.book tomorrow[3)]
「私の友達は明日この本を読むだろう」

b. ichíβusa chanji chi-**ka**-pend-**a** ili ibuuku **uyú** **umwaka**
7.friend 7.my 7SM-REM.FUT-read-BF 5.this 5.book 3.this 3.year
「私の友達は明日この本を読むだろう」

c. *ichiβusa chanji chi-**ka**-pend-**a** ili ibuuku **leelo**
7.friend 7.my 7SM-REM.FUT-read-BF 5.this 5.book today
(int. 私の友達は今日この本を読むだろう)

一方TA接辞*aku-*と基本語尾*-a*によって表される*aku-*形式は，発話当日のこれから起こる出来事を表す。そのため (6a) のように*leelo*「今日」とは共起するが，(6b) のように*mailo*「明日」とは共起しない。

(6) a. ichíβusa chanji chi-**aku**-pend-**a** ilí ibuuku
7.friend 7.my 7SM-HOD.FUT-read-BF 5.this 5.book
leelo **akásuβa**
tomorrow afternoon
「私の友達は今日の午後この本を読むだろう」

---

3) ランバ語にはほかのバントゥ諸語と同様に「名詞クラス」と呼ばれる名詞の分類があり，名詞は 18 種類のグループに分けられる。主語接辞，目的語接辞，名詞修飾語は，それぞれ名詞クラスに呼応した形で現れる。例文のグロスで名詞の前に示している数字は，その名詞が属する名詞クラスを表し，名詞以外についている数字は呼応している名詞が属する名詞クラスを表す。主語接辞と目的語接辞は人称 (単数は sg，複数は pl) またはクラス番号で表す。使っている略号はアルファベット順に ANT: Anterior，ANTF: Anterior Final，BF: Basic Final，HOD.FUT: Hodiernal Future，HOD.PST: Hodiernal Past，IMPFV: Imperfective，IMPFV2: Imperfective2，INF: Infinitive Prefix，LOC: Locative Prefix，NEUT: Neuter，NUL: null，OM: Object Marker，PASS: Passive，PES: Persistive，PRS: Present，PST: Past，REM.FUT: Remote(Post-Hodiernal) Future，SF: Subjunctive Final，SM: Subject Marker である。

b. *ichiβusa chanji chi-**aku**-pend-**a** ili ibuuku **mailo**

7.friend 7.my 7SM-HOD.FUT-read-BF 5.this 5.book tomorrow

(int. 私の友達は今日の午後この本を読むだろう)

このように，ランバ語の未来テンスは，*ka*-形式によって明日以降の未来の出来事が表され，一方TA接辞を*aku*-に代えた*aku*-形式では発話当日のこれから起こる出来事が表される。つまり，ランバ語の未来の時間区分は今日 (Hodiernal) と明日以降 (Post-Hodiernal) に2分割されるということである。

1.3. 過去

次に，過去テンスの時間区分について述べる。ランバ語では，過去を表す形式には以下の3種類がある。

(7) a. 主語接辞－a－li－動詞語根－ile 【*a-li*-形式】

b. 主語接辞－a－li 主語接辞－a－動詞語根－a 【当日過去複合形式】

c. 主語接辞－achi－動詞語根－a 【*achi*-形式】

TA接辞*a*-と*li*-，完了語尾-*ile*の組み合わせによって表される*a-li*-形式は，発話時の前日以前に起こった出来事を表す。そのため (8a) の*mailo*「昨日」，(8b) の*uyu úmwaka*「去年」のようにはるか前の出来事を指す時間副詞とは共起可能であるが，(8c) のように*leelo*「今日」とは共起不可能である。

(8) a. ichíβusa chanji chi-**a**-**li**-pend-**ile** ili ibuuku **mailo**

7.friend 7.my 7SM-PST-BE-read-ANTF 5.this 5.book yesterday

「私の友達は昨日この本を読んだ」

b. ichíβusa chanji chi-**a**-**li**-pend-**ile**

7.friend 7.my 7SM-PST-BE-read-ANTF

ínkalata shine **uyu úmwaka**

10.letter 10.four 3.this 3.year

「私の友達は去年手紙を4通読んだ」

c.	*ichiβusa	chanji	chi-**a**-**li**-pend-**ile**	ili	ibuuku	**leelo**
	7.friend	7.my	7SM-PST-BE-read-ANTF	5.this	5.book	today
	(int. 私の友達は昨日この本を読んだ)					

発話時の前日以前の出来事は時間的な距離を問わず*a-li-*形式が用いられるが，発話当日に起こった出来事は以下の形式で表される。(9) は，コピュラ動詞*li*の過去形にTA接辞*a-*と基本語尾*-a*によって表される形式が後続することによって表される当日過去複合形式 (以下当日過去複合形式) である。この形式は発話当日に起こった出来事を表すため，(9a) のように*leelo*「今日」とは共起する一方 (9b) のように*mailo*「昨日」とは共起不可能である。

(9)	a.	ichíβusa	chanji	chi-**a**-**li**	chi-a-pend-a	ilí	ibuuku	leelo
		7.friend	7.my	7SM-PST-be	7SM-ANT-read-BF	5.this	5.book	today
		「私の友達は今日この本を読んだ」						
	b.	*ichiβusa	chanji	chi-**a**-**li**	chi-**a**-pend-**a**	ilí	ibúuku	mailo
		7.friend	7.my	7SM-PST-be	7SM-ANT-read-BF	5.this	5.book	yesterday
		(int. 私の友達は昨日この本を読んだ)						

以下のTA接辞*achi-*と基本語尾*-a*の組み合わせによって表される*achi-*形式も，当日過去複合形式と同じく発話当日に起こった出来事を表す。この形式はDoke (1922，1938) の時点では報告されていなかったが，Bickmore (1995) や湯川 (1995) による動詞の声調の研究で新たに報告されるようになった形式である。(10a) のように*leelo*「今日」とは共起するが，(10b) のように*mailo*「昨日」とは共起しない。

(10)	a.	ichíβusa	chanji	chi-**achi**-pend-**a**	ili	ibuuku	**leelo**
		7.friend	7.my	7SM-HOD.PST-read-BF	5.this	5.book	today
		「私の友達は今日この本を読んだ」					
	b.	*ichíβusa	chanji	chi-**achi**-pend-**a**	ili	ibuuku	**mailo**
		7.friend	7.my	7SM-PST--read-BF	5.this	5.book	yesterday
		(int. 私の友達は昨日この本を読んだ)					

このように，ランバ語では，発話当日に起こった出来事が当日過去複合形式と*achi*-形式によって表され，発話の前日以前に起こった出来事は，その時間的距離にかかわらず*a-li*-形式によって表される。つまり，ランバ語の過去テンスは発話当日 (Hodiernal) と昨日以前 (Pre-Hodiernal) の2区分である。

2. ランバ語のアスペクト

2節では，ランバ語のアスペクトについて述べる。各形式の用法を詳しく見ていくことで，それぞれのアスペクトについて言及する。Doke (1922，1938) で報告されていたにもかかわらず現存していない形式や，Doke (1922，1938) では報告されていない新たな形式についても適宜言及する。

2.1. Perfective

Perfective (完結相) とは，出来事の始まりや終わりなどといった内部構造を取り出すのでなく，出来事をひとつのかたまりとして示すもののことをいう (Comrie 1977:17-18)。例えば以下の (11) は*a-li*-形式を用いた例で，「読む」という行為の内部構造，例えば昨日以前のある時点において「読み始めた」あるいは「読むという動作が続いていた」，「読むという行為を終えていた」といったアスペクトでなく，「読む」という行為が昨日以前のある時点において実現されたことのみが表されている。出来事が実現された時点が昨日以前でなく発話当日にある場合は (12) のように当日過去複合形式あるいは*achi*-形式を用いて表される。

(11)	ichíβusa	chanji	chi-**a**-**li**-pend-**ile**		ili	ibuuku	mailo
	7.friend	7.my	7SM-PST-BE-read-ANTF		5.this	5.book	yesterday
	「私の友達は昨日この本を読んだ」(=(8a))						
(12) a.	ichíβusa	chanji	chi-**a**-**li**	chi-**a**-pend-**a**	ilí	ibuuku	leelo
	7.friend	7.my	7SM-PST-be	7SM-PST-read-BF	5.this	5.book	today
b.	ichíβusa	chanji	chi-**achi**-pend-**a**		ili	ibuuku	leelo
	7.friend	7.my	7SM-HOD.PST-read-BF		5.this	5.book	today
	「私の友達は今日この本を読んだ」(=(9a)，(10a))						

(13), (14) は未来テンスのPerfectiveの例である。(13) は明日以降のどこかの時点で，(14) は発話当日のどこかの時点で「読む」という行為が実現されることを表している。どちらも未来のある時点において「読むという動作が始まるだろう」や「読むという行為を終えているだろう」などの出来事の内部構造に関する情報は含んでいない。

(13)	ichíβusa	chanji	chi-**ka**-pend-**a**	ili	ibuuku	mailo
	7.friend	7.my	7SM-REM.FUT-read-BF	5.this	5.book	tomorrow

「私の友達は明日この本を読むだろう」(=(5a))

(14)	ichíβusa	chanji	chi-**aku**-pend-**a**	ilí	ibuuku
	7.friend	7.my	7SM-HOD.FUT-read-BF	5.this	5.book
	leelo	akásuβa			
	tomorrow	afternoon			

「私の友達は今日の午後この本を読むだろう」(=(6a))

(15) は，現在を表す形式として挙げた*la*-形式を用いた例である。(15) をみると，*la*-形式は「養う」という行為について始まりや終わりを取り立てて述べているわけではなく，ただひとまとまりの出来事としてとらえている。その点では*la*-形式もPerfectiveの特徴を有していると言える。

(15)	Sombi	áβaakuíulu	βa-**la**-fi-teβet-**a**
	but	2.those_who_are_in_heaven	2SM-PRS-8OM-feed-BF

「けれどもあなた方の天の父はこれら (鳥) を養ってくださる」(Mateyo 6:25)

2.2. Imperfective

ここでは，ランバ語のImperfective (非完結相) を表す形式について述べる。ランバ語でImperfectiveを表す形式には，以下の2つがある。

(16) a. 主語接辞－テンス接辞－li　uku－動詞語根－語尾　【*li+uku*-形式】

b. 主語接辞－テンス接辞－lee－動詞語根－語尾　【*lee*-形式】

まず (16a) は，コピュラ動詞*li*に動詞の不定形 (*uku*－動詞語根－語尾) が後続する複合形式である。*li*+*uku*-形式と同じ意味を表すのに新たに使われるようになったのが (16b) の*lee*-形式である。複合形式によってではなくTA接辞*lee*-と語尾によって表される。Doke (1922, 1938) の時点ではこの*lee*-形式は報告されてなかった。以下，テンスごとにこれら2つの形式がどのように用いられるのかを述べる。

2.2.1. 未来テンスにおけるImperfective

li+*uku*-形式が明日以降の未来を表すTA接辞*ka*-を伴うと, 明日以降のある時点において継続している出来事が表される。(17a) は，明日のある時点で「読む」という行為が継続していたことを表している。これと同じ意味を表すのが，Doke (1922，1938) の時点では報告されていなかった (17b) の*lee*-形式である。(17b) では，*li*+*uku*-形式に代わってTA接辞*lee*-が用いられている。(17b) も，(17a) と同じように明日のある時点において「読む」という行為が継続されていることを表している。

(17) a.	ichíβusa	chanji	chi-**ka**-**li**	**uku**-pend-**a**	ili	ibuuku
	7.friend	7.my	7SM-REM.FUT-be	INF-read-BF	5.this	5.book
	mailo	ulúcheelo				
	tomorrow	morning				
b.	ichíβusa	chanji	chi-**ka**-**lee**-pend-**a**		ili	ibuuku
	7.friend	7.my	7SM-REM.FUT-IMPFV-read-BF		5.this	5.book
	mailo	ulúcheelo				
	tomorrow	morning				

「私の友達は明日の朝この本を読んでいるだろう」

(18) のようにTA接辞に*ka*-ではなく*aku*-をとれば, 出来事が継続しているある時点が発話当日に特定される。(18a) はTA接辞*aku*-が*li*+*uku*-形式を伴った例で，(18b) はTA接辞*aku*-が*li*+*uku*-形式に代わってTA接辞*lee*-を伴った例である。どちらも，発話時よりも後 (ただし発話当日) のある時点で「読む」という行為が継続されることが表される。

(18) a.	ichíβusa	chanji	chi-**aku**-**li**	**uku**-pend-**a**
	7.friend	7.my	7SM-HOD.FUT-be	INF-read-BF
	ili	ibuuku	akásuβa	leelo
	5.this	5.book	afterrnoon	today
b.	ichíβusa	chanji	chi-**aku**-**lee**-pend-**a**	
	7.friend	7.my	7SM-HOD.FUT-IMPFV-read-BF	
	ili	ibuuku	akásuβa	leelo
	5.this	5.book	afternoon	today

「私の友達は今日の午後この本を読んでいるだろう」

動詞によっては，語尾に基本語尾の*-a*でなく完了語尾の*-ile*が用いられ，未来のある時点において続いている状態が表される。(19) の*-laal-*「寝る」のように，結果状態を切り取ることができる動詞が語尾に*-ile*をとる。(19a)，(19b) ともにテンスを表す接辞は明日以降の未来を表す*ka-*である。(19a) は語尾に*-ile*をとった*li+uku-*形式が，明日のある時点において寝ている状態が継続されることを表す。(19b) のようにTA接辞*lee-*も語尾に*-ile*をとることができる。(19b) も (19a) と同じ意味が表される。

(19) a.	ichíβusa	chanji	chi-**ka**-**li**	**uku**-laal-**ile**
	7.friend	7SM.my	7SM-REM.FUT-be	INF-fall_asleep-ANTF
	mailo	akásuβa		
	tomorrow	afternoon		
b.	ichíβusa	chanji	chi-**ka**-**lee**-laal-**ile**	
	7.friend	7.my	7SM-REM.FUT-fall_asleep-ANTF	
	mailo	akásuβa		
	tomorrow	afternoon		

「私の友達は明日の午後この本を読んでいるだろう」

(17b) と (18b) に挙げたTA接辞*lee-*と基本語尾*-a*の組み合わせによって成る形式は，Doke (1922，1938) の時点では報告はなく，Bickmore (1995) と湯川 (1995) によって初めて

報告された形式である。一方 (12b) のTA接辞*lee*-が語尾に-*ile*をとる形式は，どの先行研究にも報告されていない。

2.2.2. 過去テンスにおけるImperfective

過去を表すTA接辞*a*-が*li*+*uku*-形式あるいは*lee*-形式がとともに現れると, 過去のある時点において継続していた出来事が表される。(20) では「読む」という行為が前日のある時点において継続していたことが表されている。

(20)	a.	ichíβusa	chanji	chi-**a**-**li**	**uku**-pend-**a**	ili	ibuuku	mailo
		7.friend	7.my	7SM-PST-be	INF-read-BF	5.this	5.book	yesterday
	b.	ichíβusa	chanji	chi-**a**-**lee**-pend-**a**		ili	ibuuku	mailo
		7.friend	7.my	7SM-PST-read-BF		5.this	5.book	yesterday

「私の友だちは昨日本を読んでいた」

ただしTA接辞に*ka*-や*aku*-を伴う未来テンスの場合とは違い, 結果状態を切り取ることのできる動詞でも，(21a) のように語尾に-*ile*をとることはできない[4)]。(21b) に示しているように，語尾に-*ile*をとることができないのはTA接辞が*lee*-の場合も同様である。

(21)	a.	*ichíβusa	chanji	chi-**a**-**li**	**uku**-laal-**ile**
		7.friend	7.my	7SM-PST-be	INF-fall_asleep-ANTF
	b.	*ichíβusa	chanji	chi-**a**-**lee**-laal-**ile**	
		7.friend	7.my	7SM-PST-IMPFV-fall_asleep-ANTF	

(int. 私の友達は寝ていた)

-*pend*-「読む」がこれら2形式と共起した場合には，過去のある時点において「読む」という動作が継続されていたことが表されるが，-*laal*-「寝る」では (22) のように過去の習慣が表される。

---

4) この形式は少なくとも Doke (1922，1938) の時点では使われていたようであるが (Doke 1922:68, Doke 1938:263)，(21a) に示しているように現在ではもう使われなくなっている。

(22) a.	ichiβusa	chanji	chi-**a**-**li**	**uku**-laal-**a**
	7.friend	7.my	7SM-PST-be	INF-fall_asleep-BF
	kani	chi-a-βon-a	áβensu	
	if	7SM-PST-see-BF	2.guests	
b.	ichiβusa	chanji	chi-**a**-**lee**-laal-**a**	
	7.friend	7.my	7SM-PST-IMPFV-fall_asleep-BF	
	kani	chi-a-βon-a	áβensu	
	if	7SM-PST-see-BF	2.guests	

「私の友達は客が来るといつも寝ていた」

一方 (23) の*-um-*「乾く」は，これら2形式によって水分が徐々になくなっていき，完全に乾くに至るまでの過程にあることが表される。これは副詞句*paniini paniini*「少しずつ」が共起可能であることからも明らかである。*-laal-*「寝る」にはそのような用法はない。

(23) a.	ilaaya	i-**a**-**li**	**uku**-um-**a**	**paniini paniini**
	5.dress	9SM-PST-be	INF-get_dry-BF	gradually
b.	ilaaya	i-**a**-**lee**-um-**a**		**paniini paniini**
	5.dress	9SM-PST-IMPFV-get_dry-BF		gradually

「(その) 服はだんだんと乾いていった」

過去を表すTA接辞*a-*が用いられる場合の*li*+*uku-*形式と*lee-*形式は, 参照点が発話当日と昨日以前のどちらにあっても構わないが，当日過去を表すTA接辞*achi-*が用いられると，参照点は発話当日に限定され，さらに接辞*lee-*は*laa-*で現れる。

(24) a.	*ichíβusa	chanji	chi-**achi**-**lee**-pend-**a**	ili	ibuuku	**leelo**
	7.friend	7.my	7SM-HOD.PST-IMPFV-read-BF	5.this	5.book	today
	(int. 私の友達は今日この本を読んでいた)					
b.	ichíβusa	chanji	chi-**achi**-**laa**-pend-**a**	ili	ibuuku	**leelo**
	7.friend	7.my	7SM-HOD.PST-IMPFV2-read-BF	5.this	5.book	today

「私の友達は今日この本を読んでいた」

2.2.3. 現在テンスにおけるImperfective

現在の場合も，過去のTA接辞*a-*の場合と同じように*li+uku-*形式，*lee-*形式はつねに*-a*を伴って現れる。Doke (1922，1938) で報告されている語尾に*-ile*を伴う形式は，現存していない[5)]。(25) のように*-pend-*「読む」では発話時に「読む」という行為が継続中であることが表される。

(25) a.	ichíβusa	chanji	chi-**ø-li**	**uku**-pend-**a**	ili	ibuuku
	7.friend	7.my	7SM-NUL-be	INF-read-BF	5.this	5.book
b.	ichíβusa	chanji	chi-**ø-lee**-pend-**a**		ili	ibuuku
	7.friend	7.my	7SM-NUL-IMPFV-read-BF		5.this	5.book

「私の友達はこの本を読んでいる」

(26) のように*-um-*「乾く」では*li+uku-*形式あるいは*lee-*形式によって過程が表されるが，(27) のように*-laal-*「眠る」では，より確定した未来の出来事が表される。

(26) a.	ili	ilaaya	i-**ø-li**	**uku**-um-**a**	**paniini paniini**
	5.this	5.dress	9SM-NUL-be	INF-get_dry-BF	gradually
b.	ili	ilaaya	i-**ø-lee**-um-**a**		**paniini paniini**
	5.this	5.dress	9SM-NUL-IMPFV-get_dry-BF		gradually

「この服は少しずつ乾いていっている」

(27) a.	ichíβusa	chanji	chi-**ø-li**	**uku**-laal-**a**
	7.friend	7.my	7SM-NUL-be	INF-fall_asleep-BF
	kani	chi-βon-e	áβensu	
	if	7SM-see-SF	2.guests	
b.	ichíβusa	chanji	chi-**ø-lee**-laal-**a**	
	7.friend	7.my	7SM-NUL-IMPFV-fall_asleep-BF	
	kani	chi-βon-e	áβensu	
	if	7SM-see-SF	2.guests	

---

5) *-lwal-*「病気である」で *li+uku-*形式が語尾に*-ile* をとる形式が一度確認されたが，別の機会で文法性を確かめた際には非文となったため，共時的にはほとんど見られなくなっていると言ってよい。

「私の友達は客を見たら寝るだろう」

このように，ランバ語の*li+uku*-形式と*lee*-形式は，参照点において継続していている動作や状態，結果状態に至るまでの過程を表す。参照点が発話時の場合は，確定している未来の出来事を表したり，参照点が過去に移れば習慣を表したりする。つまりこの2形式は，Nurse (2008) の言う，参照点あるいはその前後で継続していて，始まりや終わりなどの境界が特定されていない出来事を表すImperfective (非完結相) (Nurse 2008:136) だと言ってよいだろう[6)]。

2.3. Persistive

過去のある時点で起こった出来事が発話時まで保たれていることを表すPersistive (永続相) (Nurse 2008:145) は，ランバ語ではTA接辞*chi*-によって表される。出来事が起こった過去のある時点が言明されていてるか否かは問われない (Nurse 2008:145)。発話時 (参照点) において継続している出来事の始まりや終わりといった境界が示されないImperfectiveと比べると (cf. Nurse (2008:136))，Persistiveは出来事の始まりが過去のある時点だと (それが言明されるかは別として) 特定される点で異なっている。Doke (1922，1938) はこの形式をProgressiveと呼んでいるが (Doke 1922:69-70，Doke 1938:269-272)，バントゥ諸語研究では，このような形式はProgressiveと区別してPersistiveという呼び方をするのが一般的である。本稿もこれを踏襲する。

TA接辞が*chi*-の場合，未来テンスのImperfectiveと同じく語尾に*-a*と*-ile*のどちらをとるかは動詞によって決定される。(28) の*-imb*-「歌う」が語尾にとれるのは*-a*のみである一方で，(29) の*-laal*-「寝る」がとれるのは*-ile*のみである。

(28) a.	ichíβusa	chanji	chi-ø-**chi**-imb-**a**	na	βukuumo
	7.friend	7.my	7SM-NUL-PES-sing-BF	and	now
	「私の友達はいまだに歌っている」				
b.	*ichiβusa	chanji	chi-ø-**chi**-imb-**ile**	na	βukuumo
	7.friend	7.my	7SM-NUL-PES-sing-ANTF	and	now

6) ここでの Imperfective の使い方は，Comrie (1977) の言う Perfective と対立する概念 (Comrie 1976:25) を指したものではない。

(29) a.	*ichiβusa	chanji	chi-**chi**-laal-**a**	na	βukuumo
	7.friend	7.my	7SM-NUL-PES-fall_asleep-BF	and	now
b.	ichíβusa	chanji	chi-ø-**chi**-laal-**ile**	na	βukuumo
	7.friend	7SM-my	7SM-NUL-PES-fall_asleep-ANTF	and	now

「私の友達はいまだに寝ている」

ただし，以下の (30) の*-fwal-*「着る」のように動作と結果状態の両方の側面を切り取れる動詞であれば，*-a*と*-ile*の両方の語尾をとることが可能である。

(30) a.	ichíβusa	chanji	chi-ø-**chi**-fwal-**a**	ilaaya	
	7.friend	7.my	7SM-NUL-PES-wear-BF	5.dress	

「私の友達はまだ服を着替えている (でかける準備ができていない)」

b.	ichíβusa	chanji	chi-ø-**chi**-fwal-**ile**	lilya	ilaaya
	7.friend	7.my	7SM-NUL-PES-wear-ANTF	5.that	5.dress
	na	βukuumo			
	and	now			

「私の友達はまだあの服を着ている (まだ身に着けている)」

Persistiveの参照点が発話時でなく過去にある場合，以下のようにコピュラ動詞の過去形に (28) あるいは (29)，(30) の形式が後続した複合形式によって表される。これは，これまでの先行研究で報告のなかった形式である[7]。

(31)	ichíβusa	chanji	chi-**a-li**	chi-**chi**-laal-**ile**		
	7.friend	7.my	7SM-PST-be	7SM-PERS-fall_asleep-ANTF		
	ulu	n-a-i-ile		mu-ku-chi-βon-a	mailo	akásuβa
	when	1sgSM-PST-go-ANTF		LOC-INF-7OM-see-BF	yesterday	afternoon

「私の友達は私が昨日の午後訪ねた時まだ寝ていた」

---

[7] 参照点が過去でなく未来にある場合，例えば「(明日あるいは今日のうちのある時点において) まだ～しているだろう」は*-li+uku-*形式あるいは *lee-*形式によって表される。Doke (1922，1938) では，コピュラ動詞の未来形に後続する動詞の不定形に TA 接辞 *chi-*が挿入された形式が報告されているが (Doke 1922:67，Doke1938:271-272)，これは筆者の調査では非文となっている。

2.4. Anterior

ランバ語において，過去に起こった出来事による結果状態が発話時まで続いている，あるいは過去に起こった出来事が発話時と関連性を持つAnterior (完了相)[8]を表す形式には，以下のようなものがある。

(32) a.　主語接辞－a－動詞語根－a　【*a*-形式】[9]

　　b.　主語接辞－li－動詞語根－ile　【*li*-形式】

まずTA接辞*a*-と語尾-*a*によって表される形式がある。TA接辞*li*-と語尾-*ile*によって表される形式 (以下*li*-形式) も同じくAnteriorを表す。(33) のように，カギがなくなったことを*a*-形式あるいは*li*-形式で表すと，「でも (カギは) 今はもう見つかっている」という文を後続させられなくなる。つまりカギがなくなった状態は発話時まで続いているということである。

(33) a.

	*imfungulo	i-**a**-luβ-**a**		
	9.key	9SM-ANT-get_lost-BF		
	pano	**i-a-βon-ik-a**	**βukuumo**	
	but	9SM-ANT-see-NEUT-BF	14.now	

(int. カギはなくなったが，今はもう見つかっている)

b.

*imfungulo	i-**li**-luβ-**ile**	ukufuma	uyu	umulungu
9.key	9SM-ANT-get_lost-ANTF	since	3.this	3.week
pano	**i-a-βon-ik-a**	**βukuumo**		
but	9SM-ANT-see-NEUT-BF	14.now		

(int. カギは先週からなかったが，今はもう見つかっている)

---

8)　Nurse (2008) は，Perfective との混同を避けるため Perfect ではなく Anterior という用語を使うことを推奨しており (Nurse 2008:154)，本稿もそれに従っている。なお，Bybee et al. (1994) は結果状態が発話時まで続いていることを Resultative とし，Anterior は過去に起こった出来事が発話時と関連性を持つことのみに限定して用いているが，本稿では両者を区別しない。

9)　本稿では *a*-形式の TA 接辞 *a*-は (5) や (6)，(20) ～ (23) などの例にある過去を表す接辞 *a*-と同じものとしているが，TA 接辞 *a*-で用いられる場合には，発話時 (参照点) よりも前に出来事が起こっているということが示されるのみである。

li-形式には，単なる状態を表す用法がある。(34) では*li*-形式によって単に友人が結婚していることが表されている。一方 (35) の*a*-形式が表すのは友人がいつ結婚したのかである。*a*-形式が表すのは未婚から既婚への変化である[10]。*a*-形式が状態変化を表す傾向にあるのに対して，*li*-形式は状態が継続していることを表す傾向にあると言える。

(34) ichíβusa chanji chi-**ø**-**li**-up-u-**ile**
7.friend 7.my 7SM-NUL-ANT-marry_a_woman-PASS-ANTF
「私の友達 (女性) は結婚している」

(35) ichíβusa chanji chi-**a**-up-u-**a** leelo
7.friend 7.my SM-ANT-marry_a_woman-PASS-BF today
{友人 (女性) がいつ結婚したのかと聞かれて}「私の友達は今日結婚した」

ランバ語では，TA接辞ø-と完了語尾-*ile*によって表される形式 (以下ø-形式) によっても以下の (36) や (37) のように状態が表される。このø-形式は動詞の一形態として筆者が初めて動詞のパラダイムに導入するものである。

(36) ilaaya li-**ø**-um-**ile**
5.dress 5SM-NUL-get_dry-ANTF
「(その) 服は乾いている」

(37) impata i-**ø**-um-**ile**
9.desert 9SM-NUL-get_dry-ANTF
「砂漠は乾いている」

状態を表す用法は，(34) にも挙げたように*li*-形式も持っている。しかしø-形式と*li*-形式には以下の (38) に示すように違いがある。例えば，砂漠が「去年から乾いている」のように発話時よりも前に砂漠の乾き具合が悪化した時点があることが含意されると，以下の (38a) のようにø-形式は非文となる。この場合，(38b) のようにø-形式の代わりに*li*-形式を用いれば文脈に適合する。

---

[10] *a*-形式と *li*-形式の違いについての詳細は，紙面の都合上次の機会に譲る。

(38) a.	*iyi	ímpata	i-**ø**-um-**ile**	ukufuma	uyu	úmwaka
	9.this	9.desert	9SM-NUL-get_dry-ANTF	since	3.this	3.year
b.	iyi	ímpata	i-**ø**-**li**-um-ile	ukufuma	uyu	úmwaka
	9.this	9.desert	9SM-NUL-ANT-get_dry-ANTF	since	3.this	3.year

「この砂漠は去年から乾いている」

(38b) が示しているのは，ø-形式は発話時の前に変化があることを含意できない形式だということである。つまりø-形式が表すのは単なる状態に過ぎない。したがって，ø-形式は (39) の-*pend*-「読む」のような動作性の高い動詞とは共起できない。

(39)	*ichiβusa	chanji	chi-**ø**-pend-**ile**	ili	ibuuku
	7.friend	7.my	7SM-NUL-read-ANTF	5.this	5.book

ø-形式は，動作性のある動詞と相容れないというだけでなく，意志性や*li*-形式との補完関係など議論すべき点が少なくないが，これについての詳細な議論は紙面の都合上次の機会に譲る。

4. まとめ

以上をまとめると，ランバ語のTA体系は次頁の表のようになる。縦にはテンス，横にはアスペクトを並べている。○をつけている形式は，Doke (1922，1938) では報告がなかったがBickmore (1995)，湯川 (1995) で報告のあった形式である。これに該当する*achi*-形式と*lee*-形式，TA接辞に*laa*-が現れるImperfectiveの形式は，同じバントゥ諸語であるベンバ語に早い段階から観察されている形式である (Sharman 1955)。

ベンバ語は，ザンビア北西部の主要言語である。ランバ語が話されている中部においても有力言語であり，ランバ語ではなくベンバ語を優先的に話している話者も多い。したがって，ベンバ語が語彙や文法においてランバ語に大きな影響を与えていることは十分に考えられる。○がついた形式，すなわちDoke (1922，1938) で報告がなかった形式は，最近になってベンバ語から借用した形式である可能性が高い。Doke (1922，1938) では報告されているものの筆者の調査で非文になった形式は「*」で示している。また，表の中で◎をつけている形式は，筆者の調査によって初めて見つかった形式である。

<table>
<tr><th></th><th>Perfective (完結相)</th><th>Imperfective (非完結相)
li+uku-/ lee-</th><th>Persistive (永続相)
chi-</th><th>Anterior
(完了相)</th></tr>
<tr><td>昨日以前の過去
a-</td><td>SM-**a**-**li**-VR-**ile**</td><td>SM-**a**-**li** **uku**-VR-**a**
○ SM-**a**-**lee**-VR-**a**
*SM-**a**-**li** **uku**-VR-**ile**</td><td>◎ SM-**a**-**li** SM-**chi**-VR-**a**
◎ SM-**a**-**li** SM-**chi**-VR-**ile**</td><td rowspan="5">SM-**a**-VR-**a**
SM-**ø**-**li**-VR-**ile**
◎SM-**ø**-VR-**ile**</td></tr>
<tr><td>当日過去
achi-</td><td>SM-**a**-**li** SM-**a**-VR-**a**
○SM-**achi**-VR-**a**</td><td>○ SM-**achi**-**laa**-VR-**a**</td></tr>
<tr><td>現在
ø-</td><td>SM-**la**-VR-**a**</td><td>SM-**ø**-**li** **uku**-VR-**a**
○ SM-**ø**-**lee**-VR-**a**
*SM-**ø**-**li** **uku**-VR-**ile**</td><td>SM-**ø**-**chi**-VR-**a**
SM-**ø**-**chi**-VR-**ile**</td></tr>
<tr><td>当日未来
aku-</td><td>SM-**aku**-VR-**a**</td><td>SM-**aku**-**li** **uku**-VR-**a**
○ SM-**aku**-**lee**-VR-**a**
SM-**aku**-**li** **uku**-VR-**ile**
◎ SM-**aku**-**lee**-VR-**ile**</td><td>*SM-**aku**-**li** **uku**-**chi**-VR-**a**
*SM-**aku**-**li** **uku**-**chi**-VR-**ile**</td></tr>
<tr><td>明日以降の未来
ka-</td><td>SM-**ka**-VR-**a**</td><td>SM-**ka**-**li** **uku**-VR-**a**
○ SM-**ka**-**lee**-VR-**a**
SM-**ka**-**li** **uku**-VR-**ile**
◎ SM-**ka**-**lee**-VR-**ile**</td><td>*SM-**ka**-**li** **uku**-**chi**-VR-**a**
*SM-**ka**-**li** **uku**-**chi**-VR-**ile**</td></tr>
</table>

ランバ語のテンスは，過去，現在，未来の3つであり，そのうち過去と未来は，それぞれ発話当日と昨日以前，発話当日と翌日以降に時間区分が2分割される。アスペクトには，Perfective (完結相)，Imperfective (非完結相)，Persistive (永続相)，Anterior (完了相) がある。筆者が新たにTA体系に追加したø-形式は，Anteriorの形式のひとつである*li*-形式と機能が似ていることや，*li*-形式と補完性があることから，便宜上Anteriorの欄に入れている。しかしながら，(38) に示したようにø-形式はAnteriorの持つアスペクト情報を持つことはできない。むしろ (38) が示しているのはø-形式が時間性から独立した出来事を表しているということである。今回は割愛したが，同じ用法は*li*-形式にもある。ある出来事が特定の時空間でなければ成り立たないものなのか，あるいはその逆で時間の流れに左右されることなく成

立するものなのかという叙述類型論 (cf. 益岡 (2008) など) の観点が，今後ランバ語のTA体系をとらえ直すうえで改めて必要となる。これについては機会を改めて議論する。

引用文献

益岡隆志. 2008.「叙述類型論に向けて」益岡隆志 (2008) (編)『叙述類型論』東京: くろしお出版. pp.3-18.

湯川恭敏. 1995. 「ランバ語」『バントゥ諸語動詞アクセントの研究』東京：ひつじ書房. pp.140-157.

Bickmore, Lee, S. 1995. “Tone and Stress in Lamba” *Phonology*, 12, 307-341.

Bybee, Joan & Revere Perkins, William Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar: tense, aspect, and modality in the languages of the world.* Chicago: University of Chicago Press.

Comrie, Barnard. 1977. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.

——————— 1985. *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dahl, Östen. 1985. *Tense and Aspect Systems.* New York: Basil Blackwell.

Doke, Clement, M. 1922. *The Grammar of the Lamba Language.* London: Kegan Paul, Trench, Trubner & Co., Ltd.

——————— 1938. *Textbook of Lamba Grammar.* Johannesburg: Witwatersrand University Press.

Doke, Clement, M. 1959. *Amasiwi AŵaLesa* (The Words of God). Lusaka: Bible Society in Zambia.

Nurse, Derek. 2008. *Tense and Aspect in Bantu.* Oxford: Oxford University Press.

Sharman, John, C. 1955 “The tabulation of tenses in a Bantu language (Bemba:Northern Rhodesia)” *Africa*, 26, 29-46.

参考ウェブサイト

Ethnologue, “Lamba”, https://www.ethnologue.com/language/lam （2018年6月9日閲覧）